

大阪薬科大学広報委員会

1993年(平成5年)12月10日発行



## 薬用植物（表紙写真）の紹介

### ドクツルタケ

*Amanita virosa* (Fr.) Bertillon

テングタケ科

ドクツルタケはテングタケ科のきのこで、わが国に生えるきのこのうち最も毒性が強い。1～2本で死を免れられない。わが国のきのこ中毒による年平均2名の死者はほとんどがドクツルタケによる。今年も夏に名古屋市立植物園内に生えていたドクツルタケを食べた母子が亡くなった。夕食に遅れて、残りものを少量食べた父親は2ヶ月間入院治療を受けて回復した。

このきのこはタマゴテングタケ *Amanita pallioides* (Vaill. ex Fr.) Secr. やシロタマゴテングタケ *A. verna* (Ball.: Fr.) Roques と共に昔から世界各地で中毒死に関係してきた。今でもヨーロッパ全域で、これら猛毒きのこによる死者は年平均200～300人と見積られている。ネロ皇帝の母親アグリペニアはタマゴテングタケで夫クラウジウス皇帝をはじめ数人を暗殺したと語り伝えられている如く、昔から猛毒性は周知であるはずなのに、今だに事故が繰返されている。

中毒死に関与する主な毒成分は、 $\alpha$ -、 $\beta$ -、 $\gamma$ -、 $\epsilon$ -アマニチンである。これらはRNAポリメラーゼIIと特異的に結合し、RNAの合成を阻害し毒性を現わす。食後6～10時間は中毒症状が認められず、早期の処置がされないままに、肝臓、腎臓、腸粘膜が損傷を受け、中毒症状が現われたときには手遅れになっている。

これらのきのこの特徴は根本が球根状にふくらんだ袋状の大きなつぼである。また、柄の上部には膜状のつばが付いている。ドクツルタケは柄がささくれでおおわれているが、シロタマゴテングタケは滑らかである。1～10%苛性カリ液を滴下すると、前者は黄変するが、後者は変色しない。つぼとつばはテングタケ科きのこに共通する特徴である。つばは成長の初期に落ちる種類や柄に粉状に広がる種類があるので、つばこそがテングタケ科の特徴と理解しておきたい。

環状ペプチドを含むわが国のきのことしては、上述の3種以外にタマゴタケモドキ、フクロツルタケ、

クロタマゴテングタケなどのテングタケ科きのこと共に、ドクアジロガサ（コレラタケ）などのフウセンタケ科きのこもある。これらのきのこからアマニチンなどの環状ペプチドは証明されていないが、コレラ様の激しい下痢や、血便、急性肝炎や腎炎の中毒症状および、分類学上の近縁関係から、上記のきのこはドクツルタケなどの仲間に入れられる。

テングタケ科きのこのうち、タマゴタケ *Amanita hemibapha* (Berk. et Br.) Sacc. subsp. *hemibapha* とカイザーEのきのこと呼ばれている *Amanita caesarea* (Scop. ex Fr.) Quél. はおいしいきのこで、愛好者が多い。そのために白い袋につつまれ、卵状である頃に採集される。その時期は猛毒きのこの識別が難しく、事故の原因になっている。わが国ではカバイロツルタケ *A. viginata* (Bull.: Fr.) Vitt. var. *fulva* (Schaeff.) Gill. とガンタケ *A. rubescens* Pers.: Fr. にまで食指を伸ばす人がおり、誤食による事故の原因になる。

テングタケ科きのこには猛毒性の種類と共に、テングタケやベニテングタケのように、少量はおいしいが、量を超えると幻覚を伴う中毒を起し、希れに死に至らしめる種類もある。また、シロオニタケやタマシロオニタケのように糖や脂質代謝を乱し、肝炎を併発して死に至らしめる種類もある。

今年の異常気象はきのこにも異変を起している。例年では8月末から9月にかけて生えるドクツルタケが7月に生えた。昨年は旧ソ連やハンガリーで異常気象によるきのこでの中毒死事故が話題になった。ヨーロッパでは街の薬剤師がきのこの鑑定をして市民のきのこ中毒予防に役立っていると聞く。わが国でも薬剤師がきのこの鑑別ができ、毎年200～300人が起しているきのこ中毒を減らすことに寄与できたらと思う。勿論きのこだけでなく、日常生活でよく出会う化学物質などに関する情報も薬剤師が精通すべきで、市民の健康維持増進に役立ちたいものである。根本のふくらんだきのこに注意を喚起することから始めるのがよいかも知れない。

うす暗い森の中で真白なドクツルタケを見つけたときの感動は忘れられない。その端正な姿の内に猛毒をひそめているのも神秘的である。名古屋市での事故に触発されて、古いアルバムから今回の写真を取り上げた。

(写真・文 教授 草野源次郎)

## 目 次

薬用植物（表紙写真）の紹介	草 野 源次郎
就任挨拶	学生部長 森 逸 男… 2
功労者表彰	3
故小延教授ご遺族より図書をご寄贈	3
就職状況中間報告	就職部長 栗 原 拓 史… 4
小澤貢教授追悼式	6
平成4年度法人決算報告	事務局長 河 野 光 次…10
研究室だより 第2薬化学教室	有 本 正 生…11
第28回大薬祭をふり返って	学生部長 森 逸 男…12
第11回公開教育講座について	掛 見 正 郎…14
関西倫理学会本学で開催	15
第43回日本薬学会近畿支部総会・大会、本学で開催	16
薬剤師国家試験制度変更／第79回薬剤師国家試験予定／特別講演会	17
海外出張報告 USC留学記	森 本 一 洋…18
文部省科学研究費補助金採択状況	21
教務課だより／学位授与／平成6年度推薦・一般入試概要	22
平成6年度大学院博士前期（修士）課程入学試験	22
経理課だより／学生課だより	23
ミーティングキャンプ行われる	24
奨学生状況	25
関西薬連・全薬大会結果報告	26
保健室だより	27
図書館だより／親和会だより	28
人事異動（法人理事・評議員，学内人事）／海外出張	29
各部・各委員会・委員一覧	30
後期行事予定	31
親睦野球大会	32



## 学生部長就任に際して

学生部長 森 逸 男  
教 授

拡大教授会での選挙により、この6月より学生部長という大役を担当することになり責任の重さを痛感しております。前回までの学生部長の選挙では学生部長候補者3名に対する学生の除席投票による参加を経りましたが、今回学生部長規定の改正に伴い、拡大教授会での直接選挙、ならびに任期満了時の変更（従来は6月16日より翌々年6月15日を4月1日より翌々年の3月31日まで）がありました。過去、教務部長、図書館長、就職部長と皆様方のご協力で無事経験修了させて頂きましたが、何分にも学生部の職は始めてで、私のごとき浅学非才の身に、この職の重さが両肩にかかり、益々ヤセル思いをしております。

高校生より大学への進学率が4割にも達する高等教育の大衆化、学生の不均一で多様な集団化、大学設置基準の改定など、今や幾多の難問が山積しております。占来より高等教育の在り方とされてきました“大学は、あくまでも学生が自主的に学ぶところであり、他人から教えられるところでない”とか、

従来よりの研究第一主義的な発想はもはや通用せず、常に研究活動と教育活動の同等化、ひいては教育活動の優先化が要求されている現況であります。日頃学生諸君と接して、現代学生と、私どもとのあまりに掛け離れた感覚のズレに悩まされることが多々あります。このような時期にこそ、学生部の役割分担は極めて重大かと考えられます。

学生部ならびに学生部長の職務は、“大学と学生諸君との良きパイプ役”であり、その役割を果たすことが私の責務かと思えます。

従いまして、今後とも学生代表である学友会執行部と学生部との密なる会話を通して、現在のこの難局を乗り越え、大学の未来ある発展に向かって私なりに少しでも貢献できれば幸いかと考えております。全学生、全教職員一同とども、明日の大阪薬大の発展のために努力することが必要であり、学生諸君、同窓生、ご父兄、教職員皆様方一層のご協力をお願いし、学生部長就任の挨拶とさせていただきます。



## 功労者表彰 元理事長 石黒武雄氏に



功労者表彰規程（平成5年3月23日制定）に基づき、5月の理事会において、功労者の第1号として、前理事石黒武雄氏を表彰することに決定いたしました。石黒先生は、昭和23年に帝国薬学専門学校長として赴任され、以来37年間理事として在任され、今年6月の改選を機に退任されましたが、その間、大学昇格には大変なご苦勞をなされ、昭和41年5月から44年6月までは理事長として本法人の運営にご尽力されました。

8月5日、東京において、大村理事長より表彰状並びに金一封が贈呈されました。

石黒先生のご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。

## 故小延教授ご遺族より図書をご寄贈

本学の発展にご尽力頂いた故小延教授ご遺族小延喜久子氏より、故人のご遺志を継いで本学の教育研究発展のために図書購入費、金100万円のご寄贈を賜りました。

これを承けて図書委員会において慎重に検討選考

を重ねた結果、ようやく購入配架を終えて去る8月31日ご遺族にご披露をいたしました。つづいて学長室において学長より、感謝状を贈呈して謝意を表しました。





# 平成5年度 就職状況中間報告

就職部長 栗原拓史  
教 授

しばらく前のNHK朝のテレビ番組での「最近話題の数字」の中で0.89という数字を目にした。これは来年度の大学卒業生に対する企業の採用予定数を表したものである。なかなかこの見えてこないこの不況は来年もまだ続きそうである。そうした中であって、ますます早くなる企業の動きに合わせ、今年はずっと10日ばかり早い4月12日の就職ガイダンスの後、14～16日の3日間をかけて進路希望の調査、面談を実施した(表I参照)。この学年は前年度に比べ男子15名、女子47名とかなり少ないにも拘らず、大学院進学希望者が男子30名、女子にいたっては13名と激増しているのが特徴である。これもこの不況が影響しているのであろうか。

10月に入り、企業からの正式な採用内定通知が次々と届き始めた中であって、未だ就職先の決まっていない学生が多く残っているが、昨年にならってこの時期での現状報告をまとめ今後の参考資料に供したい。

この時期での求人総数を因みに昨年と比較してみると、薬業関連企業からの求人件数こそ322件(昨年327件)と昨年並みであるが、求人数は1071名で昨年の2117名の約半分に落ち込んでおり、この不況が如実に反映されている。内定状況(表II)に見られるように、男子学生は進学組も含めて65名(75%)が決定している。例年通り医薬情報担当者(MR)が26名と圧倒的に多いのに反し、今年は研究開発分

## 平成6年3月卒業予定者進路希望調査状況

(表I)

('93年4月16日現在)

	男 子				女 子				男 女	
	Y	S	計	%	Y	S	計	%	合計	%
薬業関連会社(営業)	8	16	24	27.6	8	2	10	6.6	34	14.3
(研究・品質管理)	3	3	6	6.9	21	20	41	27.2	47	19.7
(学術・開発)	1	1	2	2.3	12	14	26	17.2	28	11.8
(その他)	0	0	0	0.0	0	1	1	0.7	1	0.4
薬局小売	1	1	2	2.3	1	0	1	0.7	3	1.3
病院・診療所	5	2	7	8.0	23	13	36	23.8	43	18.1
研修生	3	1	4	4.6	4	4	8	5.3	12	5.0
公務員	5	3	8	9.2	10	2	12	7.9	20	8.4
大学職員	0	0	0	0.0	1	0	1	0.7	1	0.4
進学(大学院)	16	14	30	34.5	6	7	13	8.6	43	18.1
未提出	2	2	4	4.6	1	1	2	1.3	6	2.5
合計	44	43	87	100.0	87	64	151	100.0	238	100.0

野への求人が少なく僅か4名が内定をもらっているに過ぎない。一方、大学院進学者は30名(34.5%) (うち2名が他大学進学)で、まだ数名が2次試験待ちで残っており、昨年より若干増加しそうである。20名近い男子の未決定者は目下大病院、研修生、公務員を掛け持ちしながら、薬剤師としての道を模索しているようである。

女子学生の場合、数の上からは企業の研究開発部門が最も多いが、僅か31名で昨年時の半分であり、病院への内定者もまだ10名に過ぎない。MRが18名決定しており、これは昨年と全く同じパーセンテージである。いずれにしても、極めて寂しい数字に終わっており、74名の未決定者が残っている。この中には依然として企業への就職を強く希望している学生もおり、何とか力になってやりたいと考えつつも、方向転換も少しは考えておきなさいよーとアドバイスしているのが実情である。大学院進学者は結局11名(うち1名が他大学)に落ち着いたが、昨年に比べて大幅増である。

以上大まかな中間報告を記したが、総数96名の未決定者の多くも間もなく発表される公務員、病院研修生の結果ではっきりするであろうが、特に女子学

生の病院、調剤薬局等への積極的なアプローチが必要ではなかろうか。

先日(9月30日)、現3回生への第1回目の就職ガイダンスを行った。今年は少し趣向を変え、大手製薬企業の人事部で直接採用に係わっておられるベテランの方を講師としてお招きし、\*製薬企業の現状とこれからの見通し、\*企業が求める学生像、\*企業での仕事の内容、\*医薬情報担当者のこれからのあり方—などについて話していただいた。講師の方が驚くほど学生たちの反応は真面目で、熱心に耳を傾けている姿がとても印象的であった。



就職資料室

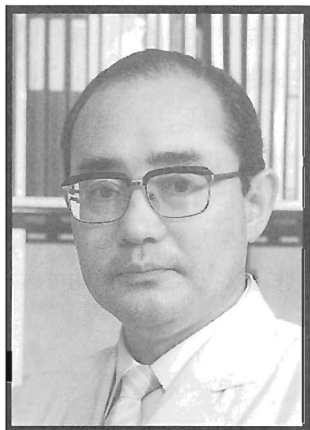
## 平成5年度 就職・進学内定状況

(表Ⅱ)

(’93年10月4日現在)

	男 子				女 子				男 女	
	Y	S	計	%	Y	S	計	%	合計	%
薬業関連会社(営業)	9	17	26	29.9	12	6	18	11.9	44	18.5
(研究・品質管理)	1	3	4	4.6	19	12	31	20.5	35	14.7
マスコミ	0	0	0	0.0	0	1	1	0.7	1	0.4
薬局小売	1	2	3	3.4	0	1	1	0.7	4	1.7
病院・診療所	0	0	0	0.0	8	2	10	6.6	10	4.2
研修生	0	0	0	0.0	1	1	2	1.3	2	0.8
公務員	1	1	2	2.3	1	2	3	2.0	5	2.1
進学(大学院)	18	12	30	34.5	5	6	11	7.3	41	17.2
就職未定者	14	8	22	25.3	41	33	74	49.0	96	40.4
合 計	44	43	87	100.0	87	64	151	100.0	238	100.0

# 小澤 貢 教授追悼式



小澤貢先生には平成5年5月31日に大阪市立大学医学部付属病院で逝去されました。前々年の5月頃よりお体の不調を訴えられ、約1年間入院加療をされておられました。

先生には病状が進んでからも度々病院を抜け出し、大学に来られて教室員の指導もされました。馬場助教授、谷口助手を度々病院に呼ばれ、最後まで研究の打ち合わせをされるなど、終生研究の進展に情熱を注がれました。

本葬儀は6月13日大阪市長居の臨南寺会館において御親族はじめ本学関係者、学会関係者、友人、知人が全国から多数ご列席され厳粛に営まれました。また、7月10日には本学体育館において教職員、学生、同窓会などの多数の参列のもと追悼式がとり行われました。

(追悼式準備委員長・教授 草野 源次郎)



## 追悼の辞

学校法人大阪薬科大学 理事長 大村 栄之助

本日、故大阪薬科大学教授小澤貢先生の追悼式を執り行うに当たり、学校法人大阪薬科大学を代表して、先生のご霊前に謹んで、哀悼の辞を捧げます。

先生は昭和39年3月、京都大学大学院薬学研究科博士課程を終え、京都大学薬学部の副手、助手につかれ、研究、教育に従事されました。

昭和43年4月大阪薬科大学生薬学教室の助教授に就任、昭和56年4月教授に昇任されました。その後29年余の長きにわたり本学での教育、研究に尽くされ、その間先生の温厚、人間味あふれた人柄により多くの人材を世に送り出されました。

また先生は、昭和62年12月から学校法人大阪薬科大学の評議員に、平成元年6月からは理事として、本学の管理、運営の全般に亘り多大な貢献をされました。先生ご自身は、本当に植物を愛され、時には山野を跋涉し、植物の自然の生態の調査、観察をされておられました。また本学の薬用植物園の育成には極めて熱心に努力されました。本学が充実した立派な薬用植物園をもつことが出来たのは先生の情熱におうところが多かったことと存じます。学外に

おいては私立薬科大学協会の生薬学教科検討委員長として、私立大学薬用植物園の植物目録作成代表委員長となられ、遺伝資源として重要な植物データベースの作成に貢献されました。

先生の専門とされていたご研究は、生薬成分の化学的研究でした。多くの業績が発表されていますが、中でも最近、ジンチョウゲ科植物から得られた新規ピフラボノイド類が、坑HIV(エイズ)活性を示す事が発見され、研究に新たな情熱を燃やされていたやさき、不治の病魔に犯されたことは、先生は申すまでもなく私達にも極めて残念なことであり、大きなショックでもありました。

先生の病魔に対する逞しい精神力、教育者、研究者としての責任感の強さなど直接、間接にもお聞きして、先生の強い信念には、ただただ敬服いたしました。先生の不屈の闘志が、最新医学から不治といわれる病を克服することが出来るのではないかと期待し、かつ祈っていましたが、夢ははたせず、誠に残念でなりません。

理事会において、絶えず真摯な態度で意見を述べられていた先生の面影を通して、その人柄に触れることが出来ました、しかしもうお会いすることはできません。

先生とのお別れにあたり、30年に亘る長い間、大



阪薬科大学に残された先生の数々のご業績を称え、ご貢献に深く感謝の意を捧げたいと存じます。

先生の残された数々のご業績は、先生が育てられた門下生の方々によって守りつがれていくことと思えます。どうか先生、安らかにお眠り下さい。

学校法人大阪薬科大学を代表して、先生のご冥福を心からお祈りいたし、お別れの言葉と致します。



## 追悼の辞

大阪薬科大学長 久保田 晴 寿

本日ここに、故大阪薬科大学教授小澤貢先生の追悼式がしめやかに執り行われるにあたり、先生のご霊前に謹んで哀悼の誠を捧げます。

本学が飛躍的發展をめざして、改革の実現に全学を挙げて邁進しております多難なときに、大学の中心的存在として指導的役割を担うべき先生が活動半ばでご逝去されましたことは、誠に残念であり哀惜の極みであります。

先生は昭和三十四年岐阜薬科大学をご卒業になり、京都大学大学院薬学研究科修士課程に進まれ、同三十九年博士課程を終えられ、京都大学薬学部助手を経て、昭和四十三年四月に、助教授として本学に赴任されました。同年「数種のアンゲリカ属植物のクマリン誘導体に関する研究」で薬学博士の学位を取得され、さらに故奏清之教授とともにセリ科植物を中心として成分研究を続けられ、本学の生薬化学の教育研究の基礎を築かれました。同五十六年四月大阪薬科大学教授に任ぜられ、多くの優れた人材を育成されるとともに、生薬化学の分野で数多くの研究業績をあげられました。最近、馬場助教授らとの

共同研究で数種のジンチョウゲ科植物から抗エイズウイルス活性を示す特異な構造のフラボノイドを発見され、その研究に意欲を燃やしておられました。

先生が本学に赴任された当時は、大学進学者の増加に大学の施設設備や教員組織が十分対応できなかったために、わが国の大学のもっとも不安定な時代でありました。本学では先生が赴任されてまもなく用地が購入され、薬用植物園が整備されました。先生は昭和四十六年から五十年まで薬用植物園長に就任され、薬用植物の充実にも努められました。昭和六十二年に再び園長に就任され、平成三年から四年にかけて、日本私立薬科大学協会の生薬学教科検討委員会委員長にご就任になり、私立大学薬用植物園植物目録の作成代表委員長として植物データベースの作成に貢献されました。本学が豊富な薬用植物を擁する他に誇る薬用植物園を持つことができましたのは先生の貢献によるところ大であります。

先生は理想を高く掲げて、本学の学生の教育と研究の向上に尽力されました。昭和五十六年には学生の信任をえて学生部長に就任され、その豊富な経験をもとに二年間にわたり、学生の厚生補導に尽力されました。さらに、昭和五十九年には研究委員長、昭和六十二年から教務部長にも併任され、学生の教育指導に尽力され、今日の本学の教学の基礎を築かれました。昭和六十二年から学校法人大阪薬科大学評議員として、平成元年から理事として本学の管理運営に貢献されました。

先生は責任感の強い人で、大阪市大病院に入院されてからも、時々病院から大学に来られ、園長として薬用植物園の運営に心をくだかれ、貴重なご意見を文書をもって吐露されたこともありました。私は先生の強靱な精神力を、生死を越えた気迫のなかに感ずることができました。そして、告知された病に対する不屈の闘志と研究教育に対する抱負を先生から知らされたとき、先生がその逞しい精神力をもって、不治と言われる病を克服されるよう心から祈ったものでした。

私達は教育研究に対する情熱の火を最後まで燃やし続けられた先生の研究者、教育者としての強い気力と責任感に深い敬意を表し、先生が目指された道を継承し、大阪薬科大学を発展させて行くよう努力してまいります。

先生との永遠の別れにあたり、先生の偉大なご功績をたたえ、生涯の大半を本学のために捧げられたご貢献に深く感謝し、心からご冥福を祈ります。小澤先生、長い間本当にありがとうございました。大

阪薬科大学教職員一同を代表してお別れの言葉とさせていただきます。先生どうか安らかにお眠り下さい。



## 小澤先生の思い出

第二生薬学教室 助教授 馬場 きみ江

学生に小澤先生って知っていると尋ねると、「会ったこと無い。何の講義をされる先生？」と逆に尋ねられてしまいました。そう云えば、先生が病気になる日以来、三年生の講義は私が代講を務め、すでに二年余りが経過しており、先生が教えられた学生は、すでに卒業していました。長い入院、闘病生活の後、五月三十一日にご逝去されて、すでにはや四ヶ月余りが過ぎていました。大学は今までと何も変わった事もないように、まして学生にとっては全く平穏無事に毎日が過ぎていく様です。しかし、私たちの研究室ではぼっかりと大きな穴が空いてしまい、指導者を失ったと言う実感がひしひしと感じられます。教授室には書類等、先生の自筆がいたるところに残されており、それを見る度に先生を思い出してしまい、なかなか片付けることが出来ません。先生と私の初めての出会いは、私が本学を卒業した四十三年四月のことです。京都大学から助教授として赴任され、そのときの第一印象は大きくて色白で、おなかに響くような声の先生だったと言うのが今も記憶に残っています。以後二十五年に渡り公私ともほんとうにお世話になりました。生薬、生薬化学に興味があるだけで、助手に残ったものの、まだ何も分からなかった私を今日までご指導頂きました。上司が

部下の面倒をみて一人前に育てあげるのは当たり前前  
のことで、部下は上司を乗り越えて行かなければい  
けないよと、言われていました。時々、仕事等の事  
で、先生と意見が食い違って、私が引き下がらない  
場合、最近馬場さんも偉くなったもんだねと、冗  
談っぽく云われた事もありました。きれい好きで、  
几帳面で、いつも整理整頓されておられ、したがっ  
て実験データなどもいい加減なものは絶対に許され  
ず、サンプルや測定したチャートなども外部には自  
信をもって提出出来ることを、いつも心がけるよう  
にと諭されました。研究なども、私たちの意見をよ  
くくみ取って下さり、自由に、思い切って仕事をす  
る場を与えて下さいました。クラブ顧問として、陸  
上部と弓道部の面倒を見ておられましたが、これら  
はご自分が大学時代からされていたもので、その関  
係か特別実習にもクラブ出身者が大勢入って来まし  
た。また、先生は自然を大変に愛され、植物をはじめ  
とし、あらゆる生き物に造詣が深く、その名前や  
習性などもよくご存知でした。このことは実験テ  
マを選ぶときにも非常に役立ち、効率良い実験結果  
となって表れていたように思います。山に植物採集  
にでかけましたが、その折しも、野鳥の鳴き声で鳥  
の名を当てられたりして、どうして聞き分けられる  
のか不思議に思った事もありました。ご家庭でも東  
洋ランを数多く栽培され、その花をスライド写真に  
して、特に気に入った出来映えのものは、大きく引  
き延ばし額にすることを楽しみにされていました。  
入院中も、時折ご自宅に帰られては、写真を撮られ、  
その現像を頼まれました。温厚でゆったりとした、  
また人間味あふれたご性格は、このように自然や生  
き物を愛する心からにじみでていたように思います。  
中国訪問も、本学で先生が最初でした。中国の留學  
生の受け入れをされた時も、親身になって面倒をみ  
ておられました。以後、多くの方とのつながりも出  
来ました。--昨年十月に中草薬研究シンポジウム  
のために、無理をおして中国を訪れたのが、先生と  
の最後の学会出張となりました。又薬用植物園の運  
営には心をくだかれ、消えて行く薬用植物を確保し、  
薬用植物園を意義ある形で保つ事が今後の薬大の使  
命の一つであると力説されていました。研究室では、  
従来から行われているセリ科植物成分の研究に加え、  
マメ科、ジンチョウゲ科植物成分の研究およびその  
生理活性に関する研究が軌道に乗り始めており、一  
方、学外では日本生薬学会、国際中草薬学会等の要  
職、私立薬科大学生薬学教科検討委員会の委員長を  
務め、学内では評議員、理事等の要職、各種委員会

等で委員長をされるなど、まだこれからという時、志半ばで倒れられた先生を思うと、その無念さがかばかりであったろうと思わずにはられません。入院されてからは、毎日夕方には病室を訪ねることが日課になりましたが、先生は最後まで大学や研究室のことを気にかけておられました。大学は移転をひかえて、大きな変革期に入ろうとしています。今、私達は偉大な指導者を失いましたが、この悲しみを乗り越えて先生のご意志を引き継ぎ、頑張っていく所存です。先生本当に長い間ありがとうございました。

## 小澤貢先生を偲んで

第二生薬学教室卒業生代表（第19期生）  
新 田 剛

謹んで小澤貢先生のみたまにお別れの言葉を申し上げます。

私は、奏先生のアドバイザーに属していた関係からたびたび生薬化学の教室をお尋ねしました。その時に先生と顔を合わせる機会があり、体格もよく温厚な先生の印象がありました。先生との思い出は、3回生の時、専門ドイツ語を辞書片手に訳したことや、生薬化学の実習では槐花からルチンを抽出したことなどがあります。また、生薬化学の特研に入れていただき、馬場先生の指導で特研を行っていましたが、カラムクロマトを見ていることに退屈すると、そっと研究室を抜け出し、よく先生の研究室に伺ったものです。いつも先生は、机に向かって文献を読んでいらっしゃいました。先生といろいろな事をお話すると、先生は決して自分の意見を押しつけるのではなく「僕は、こう思うよ」と、私たちに考えさせるように指導してくださいました。

先生の研究室は、中庭に面しており、そこには大きなイチョウの木があって、秋になると銀杏を取り、焼いて食べたこともありました。ある時には厳しく「真面目にやらないと、出入り禁止にするぞ」と注意を受けた事もありました。しかし、声を荒げてお怒りになるようなことは決してありませんでした。今、振り返ってみるといろいろな事が、なつかしく思い出されます。

小澤先生は、長い間セリ科の植物について研究されておりました。先生が教授に就任された頃、生薬化学の同窓会を「香豆会」と名づけられて二年毎に

開催されておりました。いつも先生は元気なお姿を私たちにを見せてくださいました。楽しく語られ、飲めないお酒を少し飲まれ、すぐに赤い顔をしていらっしゃいました。私たちの心は昔に還り、昔に遊び、楽しかった学生時代の思い出を追いつけたものでした。2年程前に、「香豆会」開催の連絡がなく、どうしたものかと、馬場先生にお尋ねしたところ、小澤先生のお体が思わしくなくて入院されていることを聞き、早く回復されて先生にお会いできることを楽しみにしておりました。

入院先の大阪市大病院へ昨年の7月にお尋ねしたときは、お元気なご様子で私の家族のことなどをお尋ねになり世間話に終始しました。先生が病と戦っておられることを知られまいとされていたのでしょうか。ただ、先生が流動食を摂っていらっしゃる姿を見て、病気がかなり進行している様子を窺い知りました。

先生は、陸上競技、弓道、絵画、写真、魚釣り、蘭の栽培など多くの趣味を持たれていたご様子で、毎年植物を自筆で描かれた年賀状を頂きました。それには必ずM.K.のサインがありました。今年も年賀状を頂き、安心しておりましたのに、これが最後の年賀状になってしまいました。

先生、なぜはかなくも逝ってしまわれたのでしょうか。寂しく思います。

私たちが学生の頃の、あの気力、そして鍛えられた体力で、早くご回復されるものと信じておりましたのに、お別れとなりましたことは、まことに痛惜のきわみであります。

先生は、すでにこの世を去られたとはいえ、私たちの心から先生の面影は永遠に消されることはありません。

先生どうか安らかに眠りください。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



# 平成4年度学校法人決算について



事務局長 河野 光 次

去る平成5年5月26日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成4年度決算が審議のうえ承認されたので、消費収支計算書総括表を掲載し、その概要を説明することとしたい。

## (収入)

平成4年度における帰属収入の合計額は、22億7045万円余で、予算に比して1億7515万円余の増となっているが、前年度よりも1億7679万円余の減収であった。

特筆すべきは次の3点である。

1. 国の私学助成である私立大学等経常費補助金が3億152万円余で、前年度よりも1912万円の減であった。
2. 学生生徒納付金収入が予算に比して1億772万円余の増となっているが、これは平成4年度入学生数が予測よりも約18%多かったことによる。
3. 寄付金が1731万円余となっているが、そのうち

民間企業等からの研究助成寄付金が15件1220万円であった。

## (支出)

平成4年度における消費支出の合計額は、19億7120万円余で、予算に比して1億7153万円余の減となっているが、前年度よりも1億3084万円余の支出増であった。

管理経費が1210万円余の予算超過となっているが、これは、推薦入試開始のため印刷費が予算外に発生したことや高槻校地の固定資産税が評価替の為、増税となったことなどによるものである。

## (基本金組入額)

平成4年度は、設備関係6491万円余（教育研究用機器2524万円、図書3808万円他）および高槻校地買収による借入金返済分13億円を基本金に組み入れた。

以上の結果、平成4年度は10億6565万円余の大幅な支出超過となるが、高槻校地に係る基本金組み入れを除けば約2億3000万円の収入超過であった。

## 消費収支計算書 総括表

平成 4年 4月1日から  
平成 5年 3月31日まで

(単位 円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	1,621,600,000	1,729,325,000	△ 107,725,000
手数料	77,000,000	80,895,300	△ 3,895,300
寄付金	0	17,317,920	△ 17,317,920
補助金	326,200,000	301,697,839	24,502,161
資産運用収入	30,000,000	84,677,290	△ 54,677,290
事業収入	8,700,000	10,241,177	△ 1,541,177
雑収入	31,800,000	46,305,295	△ 14,505,295
帰属収入合計	2,095,300,000	2,270,459,821	△ 175,159,821
基本金組入額合計	△ 1,514,280,000	△ 1,364,910,043	△ 149,369,957
消費収入の部合計	581,020,000	905,549,778	△ 324,529,778

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	1,267,000,000	1,163,104,068	103,895,932
教育研究経費	501,670,000	500,815,649	854,351
管理経費	71,750,000	83,853,760	△ 12,103,760
借入金等利息	272,320,000	222,125,342	50,194,658
資産処分差額	0	752,873	△ 752,873
徴収不能額	0	550,000	△ 550,000
[予備費]	30,000,000	0	30,000,000
消費支出の部合計	2,142,740,000	1,971,201,692	171,538,308
当年度消費支出超過額	1,561,720,000	1,065,651,914	
前年度繰越消費支出超過額	670,787,653	670,787,653	
翌年度繰越消費支出超過額	2,232,507,653	1,736,439,567	

## 第 2 薬化学教室



助教授 有本正生

4 回生の時に「実験が好きだったら、大学に残ったら」と先生に言われ、安易な気持で助手として職務につきましたが、大学紛争という激動の時代を経て、退職を考えた事もありました。その折に、二年前に退官されました山口秀夫名誉教授に助けをいただき、現在に至るまで二十有余年という歳月を有機化学という学問に勤しんできました。その間、内地留学や海外留学等、この上ない貴重な体験をさせていただきありがとうございます。二年前より第2薬化学教室を預かり、責任を感じながら教えていただいた教訓を念頭におき、教育と研究に情熱を捧げたいと念じておる次第です。

私達の教室、第2薬化学教室は東研究棟の東寄り、窓を開ければ生駒の山並みが見渡せる3階に位置しており、そこに教授室と研究室並びに廊下をは

さんで筋向いの小研究室の三室があります。現在、私の教室には助手（ただ今欠員ですが、次年度は新任を迎える予定）と特別実習生五名がおり、種々の機器類に囲まれながら、手狭な研究室で、教室員一同張切って研究に励んでおります。有機化学に興味ある下級生も自由に入出入りする教室ですので、一度来てみてはいかがですか。他に大学の共同利用施設で、管理責任者となっております元素分析室があり、そこには元素分析一筋で大ベテランの塚本好子助手が居られます。

教室の研究テーマは大別して二つあり、その一つは種々の生理活性を有するリグナン類の合成である。特にその骨格を成すγ-ブチロラクトンの立体選択的な構築を出来るだけ、かつ容易に成し遂げようと務めております。もう一つはケイ素原子を有する有機化合物と種々の反応剤との基礎的な反応研究の積重ねにより、新しい反応の発見に夢を抱いております。又、ここ数十年にわたって取り扱って来た植物ハスノハギリの種子の中で、含有量の非常に多いデオキシホドフィロトキシンという化合物がなぜ立体選択的に作られるのかという疑問に興味をもっており、いずれ挑戦したいと考えております。

以前、山口秀夫教授が居られた時にはあまり感じなかったのですが、私一人になってみて何かと用事ができ、猫の手も借りたいような多忙な日々を過ごしております今日この頃です。本学の移転問題、医療の中でこのからの薬剤師の問題、又カリキュラムの問題等、多くの諸問題をかかえながら、薬科大学の在り方が問われる時代に、有機化学という学問の位置づけを考えていきたい。更に入室してくれる優秀で、研究熱心な学生諸君と我々教員は共に、地道な努力で、和気藹々と、一丸となって目標の達成を目指していきたい。



# 第28回大薬祭を顧みて

学生部長 森 逸 男  
教授

第28回大薬祭が学生諸君の熱意と関係各位のご援助、ご協力のもと、天候にも恵まれ、無事終了することができました。例年にも増してこの大薬祭を和気藹藹として、盛大に無事終了できましたのは数少ない大薬祭実行委員の昼夜を問わない努力と、この祭典に率先して参加し、大薬祭を盛り上げてくれました若人の結集であり衷心よりお慶び申し上げます。たまたま学園祭と倫理学会との日程が重なり、多少の遠慮のせいか初日（11月5日）は文化部の学生会館、体育館などでの発表、校庭でのバレーボール大会と比較的静かな中に終わりました。2日目より大いに盛り上がりを見せ、校庭でのバレーボール大会、学生会館などでの文化部の発表、清水国明の講演、特研対抗カラオケ大会、さらに恒例のバラの祭典が催され、会場の雰囲気は最高潮に達しました。最終日にはクラブ対抗カラオケ大会、北野誠とシンデレラエキスを迎え、夜にはファイヤーストームを囲んでのフォークダンスと打ち上げ花火など、随

分例年とは違った企画のもと“第28回大薬祭”三日坊主～三日しかないのよ～を無事盛況に終了することができました。なお従来学生会館横で行われておりました模擬店を南実習棟（B棟）前に移すとともに、実習棟前の芝生も開放してみましたところ、天候にも恵まれ、明るい緑の庭で先輩、後輩、師弟との語らい、酌み交わしの場を持つことができ、本当に有意義な一時を過ごすことができたようであります。会期中、幼稚園児の集団参加もあり、微笑ましい情景をかいま見ることができました。3日間という非常に短い期間の学園祭ではありましたが、若い情熱が振りしぼられ、青春の楽しい思い出を作ることが出来たのではと思います。これには学生諸君の努力もさることながら、例年にも増しての御父兄ならびに同窓会諸先輩からのご援助、ご協力の賜物であり感謝に堪えません。毎年いわれております“大薬祭のマンネリ化、漸新さの不足でもっと薬学の祭典であることをアピールすべきだ”などの意見を耳



にはします。この際毎年同じような、くり返しの連続などと、ヤボなことはいわないで、学生諸君が一生懸命立案し、実行してきている大薬祭であり“学生自らの青春の捌け口の祭典”とでもとらえ、年中行事だと割り切ってみたらとする意見にも頷ける気もいたします。いずれ大薬祭の反省会が行われることと思いますが、来年（第29回大薬祭）以降の大薬祭、大阪薬大の明日に向かって、学生と教職員が協力して少しでも多くの一般学生の参加、教職員なら

びに大学周辺住民が参加できるように開かれた大薬祭とすることが是非とも必要かと思われれます。そして今年にも増してより立派で盛大な大薬祭が行われることを熱望します。

終わりにのぞみ大薬祭の立て役者として努力された第28回大薬祭実行委員会、学友会執行部ならびに各学友会クラブ員諸君の昼夜を分かたない努力を賞賛します。



# 第11回公開教育講座について

公開教育講座委員会委員長

教授 掛 見 正 郎

第11回公開教育講座は、昨年度に引き続き財団法人日本薬剤師研修センター（村田敏郎理事長）との共催で、10月16日(土)、23日(土)、30日(土)の三日間にわたり、本学で開催されました。今回は「新しい医療とこれからの薬剤師(2)」を主テーマとして、次表の講師と演題で行われました。初日、2日目とやや天気は悪かったのですが多数の参加者があり、また講演後の討論も熱心に行われ、結局3日間とも終了時刻を1時間以上も延長することとなりました。最終日には、今回の公開講座について22項目にわたりアンケートをとりました。その結果は現在集計中ですが、参加者の評価は高く、おおむね成功裡に終了したと考えております。本公開教育講座の開催にご協力頂きました財団法人日本薬剤師研修センター、社団法人大阪府薬剤師会、本学同窓会に深謝いたしますと共に、当日裏方として支えていただきました本学職員、大学院生、4年次生の方々に感謝します。

本年度は公開教育講座委員会による開催方針決定が早かったため十分な広報活動が出来、その結果参

加予約者総数は約250名で、これは第1回（昭和58年）に次ぐ多数となりました。また他大学出身者が4割を占めるなど、「公開」教育講座のあるべき姿に近付きつつあることが伺えます。今後、より多くの参加者があり、本講座が真の「薬剤師の生涯学習」の助けになることを望んでおります。





## 第 11 回 公開教育講座プログラム

10 月 16 日 (土)	13:10 13:20~ 15:00 15:20~	第11回公開教育講座開講の挨拶 「薬務行政をめぐる最近の話題」 Coffee Break 「アレルギー疾患と東西医学のアプローチ」	厚生省薬務局企画課課長補佐／安倍 道治 大阪市立大学医学部講師（小児科学）／塚本 祐壮
10 月 23 日 (土)	13:20~ 15:00 15:20~	「オーダーリングシステムを利用した病院の医薬品管理」 Coffee Break 「糖尿病の治療をめぐる」	富山医科薬科大学教授・附属病院薬剤部長／堀越 勇 大阪大学医学部講師（第一内科）／河盛 隆造
10 月 30 日 (土)	13:20~ 15:00 15:20~ 17:00	「薬効の速度論的な見方と最適投与計画」 Coffee Break 「服薬指導と医薬情報」 閉講の挨拶	大阪薬科大学教授（薬剤学）／掛見 正郎 帝京大学薬学部医薬情報室／堀 美智子 公開教育講座委員会

## 関西倫理学会 本学で開催

教授 森 下 利 明

1993年度関西倫理学会が、11月5日(金)・6日(土)の両日、本学において開催された。大薬祭中ではあったが、学生及び学生部の理解の下に、34教室において極めて静粛な雰囲気の中で、研究発表及びシンポジウムが実施された。日程の内容は次の通り。

11月5日 9:00~14:30 研究発表  
15:30~17:00 見学  
17:30~19:30 懇親会  
11月6日 9:20~14:20 研究発表  
14:30~17:30 シンポジウム

5日午後には、研究発表後一部の会員が、扶桑薬品工業株式会社の御好意による工場見学に参加した。最近の医薬の倫理問題について質問が頻発するなど、

研究分野が異なるだけに却って意義深い見学会となった。見学終了後、懇親会では学長の挨拶があり、和やかな談笑のうちに会員相互の親睦を深めた。

6日午後のシンポジウムのテーマは「フェミニズムと倫理」であり、3名の提題者が「フェミニズムと倫理」「労働とフェミニズム」「精神分析における性差の問題」という題名で、それぞれ発表を行った。会員外の方々も加わって100名近くに盛り上りを見せ、午後6時まで時間延長をして熱気あふれる討議が続けられた。

尚、両日も薬学に興味をもつ幾人かの会員が薬用植物園を訪れ、喜多助手の親切な案内と説明をうけ、感謝された。

# 第43回日本薬学会近畿支部

## 総会・大会、本学で開催

日本薬学会近畿支部幹事 教授 藤 田 直

平成5年10月24日(日)に久保田晴寿学長を準備委員長として、本学において第43回日本薬学会近畿支部総会・大会が開催された。演題数は、特別講演1題、平成4年度支部奨励賞受賞者講演6題、一般学術講演181題で、演題数としては過去最大であった。特別講演は「企業における創薬研究の現状」の題目で午後3時30分から4時30分まで、武田薬品工業 創薬研究本部・医薬開拓本部 本部長 藤野政彦博士により興味深い講演が行われた。講演の結論としては、医薬品の開発に13年(武田薬品の研究所は十三にあり)、開発予算は130億円とのことで大変な努力と忍耐が必要とのことでした。若手研究者にとっては将来への何よりの糧になったことと思います。一般学術講演は午前9時より7部会(衛生化学, 病院薬学・薬剤学, 生物化学, 物理化学, 有機化学, 分析化学, 生薬学・天然物化学, 薬理学), 8会場で開催され、本学からも42題と多数の発表があり、どの

会場でも熱のこもった発表と討論が行われた。

参加者は525名(一般352名, 学生173名)と、これも予想以上の盛況であった。本学は近く移転をひかえ、新天地に向かって歩むことになるが、この学会の大成功が今後の励みとなることはいうまでもない。

また、午後5時30分より第43回日本薬学会近畿支部大会懇親会が、日本薬学会近畿支部顧問、幹事の先生方、特別講演演者藤野政彦先生をはじめ、177名の方々の参加の下、天王寺東映ホテルにおいて盛大に催された。

最後に、当学会の開催にあたり本学職員、大学院生、学生諸君のご協力に深甚なる感謝の意を表したいと思います。

なお、第44回日本薬学会近畿支部総会・大会は、来年秋、神戸薬科大学において開催されます。



## ▶ 薬剤師国家試験制度変更

厚生省は、医療薬学をより重視した方向での薬剤師国家試験制度の改善を打ち出し、平成8年3月に実施される第81回薬剤師国家試験\*から下記の項目に関する変更が、予定されています。

### 1) 試験科目および出題基準

従来の試験科目（薬理学、衛生化学、公衆衛生学、薬剤学、薬事関係法規、日本薬局方）を廃止し、表のような4つの試験区分と出題基準とする。

### 2) 試験問題数

現行の200問から240問に増加し、各試験区分の問題数は表に示すとおりである。

### 3) 実地試験の内容と出題形式の見直し

現行の学説試験と実地試験の区分を廃止し、上記の4試験区分において、従来の実地に関する問題に加え調剤実務の基礎も含めた問題を出题する。

### 4) 出題形式及び回答形式の改善

マークシート方式の5肢択一方式を基本\*\*とし、原則として正しいものを問う方式に改めるとともに、必要に応じ全回答肢正誤選択方式を導入する。

### 5) 試験実施時期

4月上旬を改め3月中の実施とする。

\*現2年次生の卒業時に実施される試験

\*\*選択肢数は最大10肢まで

<表>

試験区分	大項目	中項目	小項目	問題数
1. 基礎薬学	基礎薬学総論 医薬品の化学 生体・生体成分の構造・機能	従来の大項目に相当	従来の小項目に相当	60問
2. 医療薬学	医療薬学総論 疾病と病態 薬剤の調製と 医薬品の管理 医薬品の有効性と安全性			120問
3. 衛生薬学	保健衛生 栄養素と食品の化学 ヒトと環境			40問
4. 薬事関連法・制度	薬事関連法規 薬事制度 医療総論			20問
計				240問

## 第79回 薬剤師国家試験

○試験期日 平成6年4月1日(金)

4月2日(土)

○試験地 北海道、宮城県、東京都、富山県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、徳島県、福岡県

○試験科目 [学説試験]

薬理学、衛生化学、公衆衛生学、薬剤学、薬事関係法規、日本薬局方

[実地試験]

薬剤学、衛生化学、公衆衛生学、日本薬局方

## ▶ 特別講演会 開催

○日時：平成5年8月24日（火）15:00～

場所：大阪薬科大学 21教室

演者：南カリフォルニア大学医学部生理学教室  
Kwang-Jin Kim, Ph. D. 助教授

演題：Transport of Ions, Peptides and Proteins Across Alveolar Epithelial Cell Monolayers

主催：日本薬学会近畿支部

○日時：平成5年8月25日（水）15:00～

場所：大阪薬科大学 大会議室

演者：カナダ国ブリティッシュ コロンビア大学  
化学学部 James P. Kutney 教授

演題：Studies in Plant Cell Culture: Routes to Clinically Active Compounds

主催：大阪薬科大学 第2薬化学教室



# USC留学記

第2 薬剤学助教授 森 本 一 洋

南カリフォルニア大学 (University of Southern California; USC) は米国, カリフォルニア州ロサンゼルス市 (LA) にあり, 創立は1880年で西海岸では最も古く, 学生数は3万を越えるマンモス私立大学です。私は1992年4月25日より1993年3月6日まで USC の薬学部 (School of Pharmacy), Vincent H.L. Lee 教授のもとに留学する機会に恵まれました。日本人には同じ LA にあるカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA; この大学は州立大学で薬学部を持たない) の方がなじみ深いようですが, 地元では USC と UCLA は人気を二分しています。

USC の薬学部は1905年に開設され, 米国で始めて (1960年代) Doctor of Pharmacy (いわゆる Pharm. D.) の称号を出し, 臨床薬剤師の養成校 (6年制) としてカリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 薬学部と共にパイオニア的な役割を果たしました (USC の臨床薬学教育については後で述べる)。USC の薬学部には Pharm. D. (臨床薬剤師養成) のコースとは別に Pharmaceutical Sciences と Toxicology コースにそれぞれ Master of Sciences (修士課程, MS) と Doctor of Philosophy (博士課程, Ph. D.) の大学院, 他に Management Development of Program in Health Care のコース (non-degree programs) があります。薬学部は USC のメインキャンパスとは独立した Health Sciences キャンパス内 (リトル東京から北東に車で10分ほど) に医学部やその付属病院, 研究所とともにあります。その地域は夜になると非常に治安の悪い場所となります (1人で夜歩くことはかなり危険な行為)。

私の留学は家族を日本に残した単身留学でありました。私は LA に到着した翌日に比較的静かで治安の良い地域 (パサデナ市; LA から北東へ約15

km, ローズボウルで有名, 今年のスーパーボウルはこのローズボウルで開かれた) にアパートを見つけることができました。私がアパートに移った日 (4月28日) に偶然にもあのロス暴動が勃発しました。私はその翌日の午後までは大学の研究室にいましたが, 緊急退去命令が出され友人の車で帰宅させられました。私はテレビをまだ購入しておらずラジオの情報だけであり, 冷蔵庫には食料はほとんどなく, 不安な日を送りました。その翌々日には暴動は鎮静化しましたが, この暴動以後の LA の経済状態, さらにダウントウンの治安はますます悪化しました。幸い Health Sciences キャンパスの研究室および私のアパートは難を逃れましたが, USC のメインキャンパスはかなりの被害を受けたようです。

V.H. Lee 教授は私より2歳年下 (現在43歳) ですが, 現在 USC の薬学部の Division of Pharmaceutical Sciences の Chairman であり, Controlled Release Society の会長を務め, 極めて多忙な日々を送っていました (週の半分以上は出張し, 土, 日曜日, 祭日も関係なく働く)。彼はペプチド性医薬品の経粘膜吸収に関する研究では国際的に有名であり, この研究分野は私の研究と同じであることより, 私は彼の初来日 (1986年) 以来彼とは親しくなっていました。Lee ケス研究室のメンバーは Lee 先生, ケス, 2名のポスドク (ドイツ人と韓国人), 5名の大学院生 (インド人3名, 中国人2名), 日本の製薬会社から派遣された研究員3名と私の合計12名から構成されていました。Lee 先生をのぞく全員は米国以外の国の大学の卒業生でした。現在米国の薬学部の学生のほとんどが Pharm.D. コースに進み, 薬学部の大学院 (Pharmaceutical Sciences と Toxicology) へは進まず, また大学院の学生の多くはアジアからの留学生で占められています。し



USC 医学部付属病院, LA 群立病院をかねている

かし、日本人の場合は語学のハンディーのためになかなか入学できないのが現状です。

私に与えられた研究課題は「ペプチド性医薬品の経肺吸収型デリバリーシステムの開発」であり、同大学・医学部の肺研究センター (Pulmonary Research Center) の Edward D. Crandall 教授と Kwang-Jin Kim 助教授との共同で研究を行いました。肺は薬物の吸収に有利な部位と考えられ、吸収された薬物が初回通過効果を受けないことから、全身作用の発現を目的とした医薬品、おもにペプチド性医薬品の投与経路として期待されています。しかし、哺乳類の肺胞の構造は解剖学的に極めて複雑であるために、従来薬物の経肺吸収の研究は気管または全肺を用いて行われることが多く、肺胞からの薬物の吸収についてはほとんど解っていません。したがって、私は E. D. Crandall と K. J. Kim により開発されたラットの初代培養肺胞上皮細胞の単層膜 (RAEM) を用いたペプチド性医薬品の肺胞透過性について研究を行いました。この RAEM の特徴は肺胞の type II 細胞 (顆粒状の大肺胞細胞) を培養し、培養 2 日目に培養液に含まれるデキサメサゾンによりこの細胞が type I 細胞 (扁平肺胞上皮細胞) に変換することにあります。肺胞の状皮は単層の95%以上が type I 細胞に覆われているために、type I 細胞からなる培養細胞を用いてペプチドの透過性の研究を行うことは有益であると考えられます。ジペプチドである Gly-D-Phe と Gly-L-Phe、トリペプチドである thyrotropin-releasing hormone (TRH)、ノナペプチドである arginine

vasopressin (AVP) について RAEM の透過を調べました。培養肺胞上皮細胞 (RAEM) は医学部の肺研究グループのスーパーテクニシャン (45歳ぐらい?の女性) と助手が週 2 回作成してくれました。この RAEM の培養方法は非常に複雑で精密さが要求されるために、彼女以外の方が培養を行ってもなかなか成功しませんでした。したがって、彼女が休暇を取ると私は実験ができなくなり困りました。10カ月あまりの短い期間の研究でしたが、放射性核種 (RI) でラベル化したペプチドを用いることができ (日本に比べると比較的容易に使える) 研究成果を挙げることが出来ました。RAEM を用いる方法は、肺胞からのペプチドなどの医薬

品の吸収を調べる手段として有用であることが明らかとなりました。このように特殊な器官での物質の輸送を調べる研究に培養細胞を用いる方法は今後ますます発展して行くと思われます。このジペプチドの結果については Pharm. Res. 10, 1668-1674 (1993) に掲載され、TRH と AVP の結果については Life Sciences と Pharm. Res. に投稿中です。

Lee 研究室セミナーは毎週月曜日の朝 8 時より約 1 時間行われました。大学院生、留学生が持ち回りで研究結果または自身の研究に関わる内容の総説的な発表を行います。また、毎週木曜日の昼休み (12時~13時) には Pharmaceutical Sciences の大学院のセミナーが開かれ、各研究室の大学院の学生が持ち回りで発表を行いました。月に 1 度ぐらいの割りで外からの招待者による講演会が開かれました。医学部では physiology journal club という名前のセミナーが毎週金曜日の朝 8 時から開かれており、私も興味深い演題の時コーヒー持参で (朝食代わりにドーナツが出される) 参加しました。これらのセミナーでは講演中に我先に質問が出るために、非常にアクティブな反面、講演が予定通り進まず途中で打ち切られることもしばしばでした。

私は留学中、米国で開催された 3 つの学会に参加する機会を得ました。フロリダ州、オーランド市 (ディズニーワールドで有名) で開かれた 19th International Symposium on Controlled Release of Bioactive Materials (CRS, July 26-29, 1992) では、「バソプレシンとカルシトニンなどのペプチド性医薬品の鼻腔からの吸収」に関し口頭発表を行



入学部式(1992年度)の後、USC. School of Pharmacyの玄関で

いました。これはドラッグデリバリーシステム (DDS) に関する国際会議であり米国またはヨーロッパで毎年行われ(1996年の会議は京都で開かれる予定)、この会議には医学や工学系の研究者も多数参加します。私の講演時間は質問を含め30分間であり、途中プロジェクターのランプが切れるというハプニングもありましたが、無事終わることができました。ついでテキサス州、サンアントニオ市(アラモの砦で有名)で開かれた American Association of Pharmaceutical Scientists, 7th Annual Meeting (AAPS, Nov. 15-19, 1992)「カルシトニンの鼻粘膜吸収に及ぼすタンパク分解酵素阻害剤の影響」についてポスターで発表しました。この学会は日本の薬学会に相当するものです。最後にユタ州、ソルトレイク市(モルモン教の聖地)で開かれた 6th International Symposium on Recent Advances in Drug Delivery Systems (Feb. 22-25, 1993)では「薬物の経皮吸収に及ぼす不飽和脂肪酸の影響」と「小ペプチドのラットの初代培養肺胞膜透過」の2演題をポスターで発表しました。この会議も DDS に関する会議で、2年毎に同じソルトレイク市で開かれます。これらの学会に参加することにより世界の研究の動向をつかむことができ、また今まで論文の中でのみ知っていた有名な先生方とも知り合うことができました。

米国の薬学教育事情(21世紀の薬剤師教育)について少し述べてみます。米国

では、1960年代の後半から臨床研修を必須とする臨床薬学教育が薬学教育に取り入れられてきました。現在、2年間の教養課程と3年間の薬学専門課程に加えさらに3年間の臨床教育をする Pharm. D. 課程や2年間の教養課程に4年間の臨床教育をする Pharm. D. 課程があります。USCの薬学部は後者を採用していますが、他大学の教養課程で単位修得するか、他大学の他の学部を一度卒業し編入した学生(かなり高齢の学生もいます)が多く含まれています。米国薬科大学協会(AACP)委員会は、1992年7月に開催された年次会議で薬学教育を2年間の前薬学教育と4年間の薬学専門教育からなる Pharm. D. 課程(6年制)に一本化

することを可決しました。このことにより、直ちに6年制に移行するのではなく、段階的に新しい基準が適用され、2000年までには実施されることとなっています。

米国の薬学教育は、「創薬」を中心とした幅広い教育が行われる日本の薬学部とは異なり、医療の担い手(Pharm. D.)を育成するという一貫した目標のもとで行われています。USCの薬学部の Pharm. D. コースには(1) Hospital pharmacy(病院薬学、主に病棟業務)、(2) Community pharmacy(調剤薬局業務)、(3) Geriatrics(老年病学、在宅医療など)があり、学生はその内1つを選択し、将来の就学目標を決めます。しかし、余裕のある学



友人の Prof. Claus-Michael Lehar 宅の庭で、彼の farewell party (オランダへ帰国、ライデン大学薬学部)

生は2つのコースを同時に履修することも可能です。6年次生では1年間病院の診療施設、地域の薬局あるいは在宅医療会社での研修を履修することになっています。USCの薬学部学生数は1学年160名ぐらいですが、日本と同様に約2/3が女子学生、半数以上がアジア系の学生であり、最近では中国系を追い越しベトナム系の学生が多いようです。彼らは医療の最前線で教育を受けており、私の目には彼らが生き生きとしているように見えました。ただ米国の薬学部からは「創薬」を目指した研究者が育たないのが悩みのようです（先にも述べた様に Ph. D. コースの学生はアジアからの留学生ばかり）。現在、東京薬科大学、名古屋市立大学薬学部、名城大学薬学部は USC の薬学部と提携関係にあり、昨年8月に東京薬科大学の医療薬学コースの大学院の学生18名が2週間の日程で臨床薬学研修のために USC の薬学部に来て来ました。彼らは基礎的な臨床薬学の教育を受け、小グループに別れ付属病院で病棟研修を行っていました。他の2大学でも同じような教育システムの導入の準備に取り掛かっているようです。日本でも日本薬剤師会や厚生省が薬学教育の6年制への移行、医療法改正に伴う薬学教育の全面的改革を提唱しており、また本学（大阪薬科大学）で

も教育改革の一つとしてカリキュラムの改正が行われています。しかし米国の様な臨床薬学の教育が出来上がるまでにはかなりの年月が必要と思われます。

単身留学であることや、また私の年齢（45才）は留学適齢期（人により異なると思うが生物系の場合30～35才位）を過ぎていていることなどからいろいろな面で厳しいものでした。V.H. Lee 先生は香港、K.J. Kim 先生は韓国から移住した米国における一世の研究者であり、彼ら自身で研究費（グラント）を取らなければならず、彼自身および大学院生、留学生の給料はその中から支払われます。したがって、米国でアジア人の一世の研究者が大学教授となり、第一線で活躍することは、人並外れた努力と精神力が必要です。私は彼らと共に休日も返上して頑張りましたが、帰る職場を持ち、比較的裕福な日本人留学生は彼らから見ればいわゆるお客さまでした。3月に帰国以来早くも半年が経過しようとしています。私はこの留学で得られた貴重な体験を、研究および教育に生かして行きたいと思っています。最後になりましたが、留学の機会を与えていただいた久保田晴寿学長、掛見正郎教授および諸先生方に厚くお礼申し上げます。

## 平成5年度 文部省科学研究費補助金採択状況

研究代表者	研究種目	研究課題	金額 (千円)
教授 森本 史郎	重点領域	血管内皮細胞におけるエンドセリン-1の産生機構	2,300
教授 千熊 正彦	一般研究C	白金ジアミンジアクア錯体の溶液内反応の精密解析および核酸塩基認識の関連	2,000
教授 掛見 正郎	一般研究C	生体恒常系の日内変動を考慮した薬物投与計画設定法の検討	1,600
助教授 辻坊 裕	一般研究C	海洋細菌 <i>Alteromonas</i> sp. 0-7 株のキチン分解酵素に関する研究	600
助手 高岡 昌徳	一般研究C	エンドセリン変換酵素の多様性と生化学的特性解析	1,700
教授 池田 潔	一般研究C	ホスホリパーゼ A <sub>2</sub> の触媒機構と阻害剤による阻害機構の解明	1,200
助教授 春沢 信哉	一般研究C萌芽 (継続)	シグマトロピー転位-環拡大反応：遷移状態の定量的解析法の研究と天然物合成への応用	600
助教授 松村 靖夫	一般研究C時限	血管内皮細胞のエンドセリン-1産生に対する血小板の作用	1,800
助手 鶴岡 浩志	奨励研究A	免疫系細胞におけるインフルエンザウイルス不完全増殖の解析	700
助手 大石 宏文	奨励研究A	DNAと薬物の相互作用に関するX線構造化学、及び構造活性相関研究	900
講師 土井 光暢	奨励研究A	グラミシジンSの会合状態と細胞膜への作用機構 —構造解析のためのアプローチ—	900
助手 尹 康子	奨励研究A	海洋産環状ペプチドの立体構造解析と生理活性相関	900
講師 井上 晴嗣	奨励研究A	種々のヘビ血漿由来ホスホリパーゼ A <sub>2</sub> 阻害タンパク質の構造と機能	900

# 教務課たより

## ■ 選択科目受験届について

従来、選択科目（再受験科目も含む）については、学科履修規程第3条第2項および第3項に基づき、履修届および受験届の提出をもって、受験資格の取得としていましたが、平成5年7月28日の教授会において審議の結果、「受験届提出の廃止」（上記規程第3条第3項の削除）が決定されました。したがって、今後は4月（通年科目、前期科目）および10月（後期科目）の履修届の提出をもって受験資格の取得とします。

## ■ 平成6年度 大学院薬学研究科博士前期（修士）課程入学試験

（1次募集）

募集人員 約16名  
 出願期間 平成5年7月26日(月)～8月6日(金)  
 学力試験 8月23日(月)〔外国語(英語)・専攻科目(12科目25問から6問選択)〕  
 合格発表 8月30日(月)  
 志願者 46名〔男子34(学外3), 女子12〕

受験者 46名〔男子34(学外3), 女子12〕  
 合格者 39名〔男子29(学外1), 女子10〕  
 （2次募集）

募集人員 若干名  
 出願期間 平成5年10月12日(火)～10月16日(土)  
 学力試験 10月25日(月)  
 合格発表 10月28日(木)  
 志願者 6名〔男子5, 女子1〕  
 受験者 6名〔男子5, 女子1〕  
 合格者 6名〔男子5, 女子1〕

## 学位授与

博士（薬学）（平成5年7月26日付）  
 博第4号 河合健蔵  
 トマトの幼若ホルモン活性成分に関する研究  
 （平成5年10月29日付）  
 論博第8号 岩本隆宏  
 新規カルシウム拮抗薬KB-2796の脳血管拡張作用に関する薬理学的研究  
 論博第9号 段 孝  
 実験動物における尿酸排泄薬の薬理作用に関する研究  
 （記・教務課長 高橋正好）

## 平成6年度 推薦・一般 入試概要

	推薦入試（一般公募制）	一般入試
募集人員 （男・女）	薬学部 薬学科 約40名 } 計約80名 製薬学科 約40名 }	薬学部 薬学科 約80名 } 計約160名 製薬学科 約80名 }
出願期間	H. 5. 10. 22（金）～11. 5（金）	H. 6. 1. 11（火）～2. 1（火）
入学試験日	H. 5. 11. 14（日）	H. 6. 2. 10（木）
合格発表日	H. 5. 11. 25（木）	H. 6. 2. 16（水）
入学手続締切	H. 5. 12. 17（金） 一括方式	〔1次〕H. 6. 2. 25（金） 2段階方式 〔2次〕H. 6. 3. 25（金）
試験場	本学（男女共）	本学（男）・代々木ゼミナール大阪校（女）
入試科目	〔外国語〕 英語 90分 〔小論文〕 90分	〔数学〕 数学 I 110分 100点 代数・幾何 基礎解析 〔外国語〕 英語 II 90分 100点 英語 II B 英語 II C 〔理科〕 化学 90分 100点 (300点満点)



## 経理課たより

### ■ 学費の改定について

学部学生については、平成5年度より学費スライド制を実施しています。

これに伴い、来年度の学費について諸般の事情を考慮し慎重に検討を重ねた結果、約3.3%（5万円）の値上げを決定しました。

したがって、平成5年度入学生の学費は、次のとおりとなります。

	現 行	改定後
授 業 料（年額）	900,000円	950,000円
施設・設備費（年額）	400,000円	400,000円
実験・実習費（年額）	200,000円	200,000円
計	1,500,000円	1,550,000円

尚、平成4年度以前の入学生の学費については、改定されません。

### ■ 同窓会入会積立金について

学部学生は、卒業までに30,000円の同窓会入会金を納付することになっています。

納付方法は3期分割納付となっており、3年次前・後期および4年次前期の学費納付時に各10,000円の同窓会入会積立金を学費に加えて請求します。

（記・経理課長補佐 秋月延夫）



## 学生課たより

### ■ （財）小野奨学会より表彰さる

3年次生の岸田朋子さんは、（財）小野奨学会（小野智恵子理事長）より平成4年度の成績優秀者として善行表彰をうけました。

同会は毎年1回成績の優秀な者・課外活動などで顕著な成績をおさめた者に対して奨学生80名のなかから3～4名を選考のうえ表彰をされています。本学では初めての対象者となりました。平成5年7月7日森学生部長より表彰状と副賞（図書券）が手渡されました。



### ■ 惜しくも国体出場ならず

4年次生の小泉和子さん（弓道部）は、8月29日明石市で開催された弓道競技の近畿ブロック大会に、奈良県の代表選手として出場しました。

この大会に優勝すれば第48回国民体育大会に出場できるところでしたが、健闘むなしく惜しくも2位の結果に終わりました。今後の活躍を期待します。

（記・学生課長 井頭八郎）

## ■ ミーティングキャンプ行われる

平成5年8月30日(月)、31日(火)の両日、恒例の'93ミーティングキャンプが関西地区セミナーハウス(神戸)において各クラブの親睦と情報交換および第28回大薬祭(11月5～7日開催)についての協議を目的に行われた。参加者は学友会執行部委員、大薬祭実行委員、各クラブの部長を始めとする代表者など約90名、ならびに学生部長、学生部委員、学生課員7名の計100名近くであった。緑の林に囲まれた静かなセミナーハウスで、30日に全体会議が行われ、先ず執行委員長、大薬祭実行委員長の挨拶について学生部長、委員の自己紹介を兼ねた挨拶ならびに注意事項が伝達された。ついで、学友会執行部の活動方針、ならびに秋に予定されている第28回大薬祭『三日坊主～三日しかないのよ』の計画などについて説明報告がなされた。

さらに夕食後、大薬祭のパート別ミーティングが

各会場に分れて行われた後、午後8時より11時過ぎ迄の長時間にわたり、学生と学生部委員、学生課職員とのフリートークが催され、カリキュラム問題、施設の充実、大薬祭の活性化などの諸問題について活発な意見交換が行われた。31日には校医の朝井先生にも参加して頂き、「急性アルコール中毒について」の演題のもと、アルコールの分解、ビール、清酒などのアルコール量とその飲酒量、急性アルコール中毒の死に至る怖さとその実例などについて判りやすく講議して頂きました。この講議をとおして、参加者全員があらためて“一気飲み”の危険性を再認識し、来る大薬祭あるいはクラブ会合などにおける酒の酌み交わしの心構えを知ることができ、有意義な会合として'93ミーティングキャンプを無事終了することができました。

(文・学生部長 森 逸男, 写真・赤木昌夫)



# 奨学生状況

## 1. 日本育英会

	1年	2年	3年	4年	学部計	院生	総計
第1種	24	25	28	24	101	12	113
第2種	21	25	32	18	96	—	96
計	45	50	60	42	197	12	209

- 第1種 38,000円（自宅通学者） 第2種 48,000円（自宅外通学者）  
（'90年入学者に適用）
- 第1種 41,000円（自宅通学者） 第2種 51,000円（自宅外通学者）  
（'91～'92年入学者に適用）
- 第1種 44,000円（自宅通学者） 第2種 54,000円（自宅外通学者）  
（'93年入学者に適用）
- 大学院は第一種のみで自宅，自宅外通学者とも 修士 78,000円，博士 109,000円
- 第1種は無利息，第2種は利息付（年利率3%）
- 金額はすべて貸与月額で，卒業後長期（10～20）分割返還する。

## 2. その他の育英会・奨学会

	1年	2年	3年	4年	院生	計	月額（円）	給・貸
小野奨学金	1	1	1	1		4	30,000	給
大東育英会			3			3	15,000	給
佐藤奨学会	1					1	17,000	給
朝鮮奨学会		1	1			2	25,000	給
大阪府育英会	1	5	5	3		14	22,000 } 25,000	貸
父兄会奨学会		4	3		3	10	20,000	貸
岡山県育英会				1		1	41,000	貸
電通育英会	1					1	20,000	貸

- 「給」は給付で，返還を要しない。
- 「貸」は貸与で，卒業後長期分割返還する。

## 関西薬連・全薬大会結果報告

### ◎ 関西薬連

バレーボール

男子 6位 (9校中)

女子 2位 (11校中)

卓球部

男子 4位 (6校中)

バドミントン

男子 6位 (10校中)

女子 3位 (11校中)

硬式野球

1位 (5校中)

柔道部

1位 (5校中)

硬式テニス

男子 7位 (10校中)

女子 6位 (11校中)

陸上競技

総合 3位 (5校中)

男子 トラック 3位

フィールド 1位

総合 3位

400mリレー 3位

1600mリレー 3位

女子 トラック 2位

フィールド 3位

総合 3位

400mリレー 3位

剣道部

男子 3位 (6校中)

女子 ベスト8 (15校中)

軟式テニス

男子 4位 (8校中)

女子 2位 (9校中)

バスケットボール

男子 3位 (5校中)

女子 2位 (5校中)

サッカー

4位 (8校中)

### ◎ 全薬

卓球部

男子 決勝リーグ進出

軟式テニス

男子 予選落ち

女子 1位 (10校中)

剣道部

男子 2位 (12校中)

女子 予選落ち

バスケットボール

男子 1回戦敗退

女子 予選落ち

### 個人

男子ダブルス 2位 三上②間②

女子シングルス 2位 村田④

女子ダブルス 1位 川崎③今井①

女子ダブルス 2位 村田④原④

新人戦

男子シングルス 1位 近藤①

3位 田中①

有段の部 3位 田中②

男子シングルス 2位 戸田①

3位 北尾②

女子シングルス 3位 川上①

4位 清川①

男子 110mハードル 2位 二松③

走り幅跳び 2位 木村④

3段飛び 2位 木村④

砲丸投げ 3位 木村③

ハンマー投げ 1位 木村③

円盤投げ 2位 内山②

女子 200m 2位 岩尾①

400m 2位 清重③

800m 2位 清重③

3000m 2位 竹島①

3位 清重③

走り幅跳び 1位 田中①

やり投げ 1位 中村①

円盤投げ 3位 脇①

女子ダブルス 3位 衛藤③土井③

個人  
男子シングルス 3位 粕淵①

女子ダブルス 1位 衛藤③土井③

2位 叶②梁川③

女子 3位 勝間②

## AIDS（後天性免疫不全症候群）

### 1) AIDS とは

AIDS とは HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染し、生体の免疫系が障害され免疫不全状態となり、重症の日和見感染症（カリニ肺炎、トキソプラズマ症、カンジダ症、サイトメガロウイルス感染症など）や悪性腫瘍（カポジ肉腫、原発性リンパ腫、非ホジキン性リンパ腫など）、脳神経障害（エイズ脳症など）を合併する病気をいう。

日和見感染症とは、通常無害な細菌・真菌・原虫・ウイルスなどが免疫機能を失った体内で大量に増殖しておきる病気である。

### 2) 生体の免疫メカニズム

HIV は生体の免疫機能（左図）の中枢である、ヘルパーT細胞を破壊し増殖することにより免疫を低下させるウイルスである。

### 3) エイズの現状

日本におけるエイズ患者・感染者は、1990年を境にして性的接触による感染が急増している。感染者の年齢構成（20～29歳代→55.5%、30～39歳代→19.1%、40～49歳代→11.3%、50歳以上→5.3%）として、性的行動のさかんな年齢層（20～39歳）が約7割以上を占める。

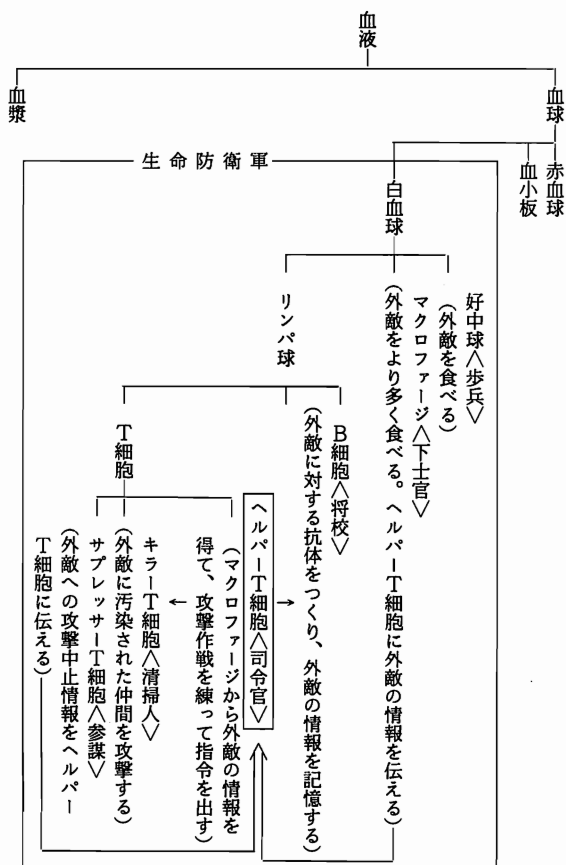
一見、海外で感染していることが多いと思われるが、感染した日本人男性の約50%、日本人女性の80%が国内で感染している。又、男女の差がなくなってきている。自分には関係がないと無関心でいられてなくなってきているのが現状です。

WHO（世界保健機関）は全世界のエイズ感染者数を1300万人と推定しています。今世紀末には4000万人に達すると予測しており、今後、アジア地域で急増すると警告しています。

### 4) おわりに

HIV は生体外での感染力は弱く、日常生活では感染しない。感染経路として、①性的接触、②母子感染、③血液媒介感染と限られているので、感染危険度の高い行動（ハイリスク・ビヘイビア）はしない、感染させないと言う意識を持ってほしいと思います。

（記・保健婦 辻 悦子）



## 図書館たより

### ◆ 寄贈図書

別掲の小延教授寄贈図書は、図書委員会で選定の結果、図書127冊およびCD-ROM版、第十二改正日本薬局方解説書を購入して特様の利用に供するはこびとなりました。

ご趣意を尊重して有効な利用をはかるとともに、いつまでも大切に取り扱いして下さい。

図書には表紙に金色ラベルを貼って「小延鑑一教授御寄贈、1992、12」と表示してあります。

又、日本薬局方のCD-ROMは、Macintosh用ソフトの入荷が遅れていますので今しばらくお待ち下さい。入手次第閲覧に供します。

(主な図書のリスト)

Common Disease Series (全20巻)

臨床検査MOOK (全35巻)

図説からだの事典

図解 解剖学辞典

化学英語の活用辞典

分子細胞生物学(上、下)

臨床呼吸器病学

今日の治療指針

### ◆ 証紙券売機の移設

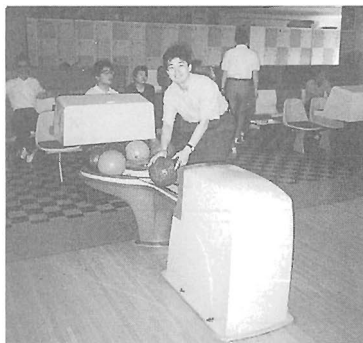
従来図書館で私費によるコピーを行った場合、別棟の本館経理課前まで証紙券を買いに行かねばならず雨の日などは特に煩わしかったが、この度経理課前より1基を図書館玄関ホールへ移設して利用の便をはかることとしました。

(記・図書課長 村上 昭)



## 親和会たより

どういう訳でしょうか、何か談合により幹事に祭り上げられた気がしないでもありませんが、有本、宇佐美、増家、伊藤(優)の4名で、平成5年度の親和会をお世話することになりましたので、よろしくお願い致します。7月始めに、前年度の幹事の方より引き継ぎを受け、今年度の親和会がスタートしました。幹事で色々行事を考え、早速7月24日(土)にアベノ橋のボールタカハシにて、ボーリング大会を開催し、プロ級の方から始めてボールを投げる方まで多数参加していただきました。普段の運動不足を解消していただいたと存じます。大会の後、センタービルの「はや」にて親睦会を行い、ボーリング大会の表彰も合わせてさせていただきました。成績は薬理学教室の高岡昌徳助手がプロ顔負けのハイアベレージでダントツの栄冠を勝ち取られました。その他種々の賞品が多くの人達にわたされた訳であります。親睦会では非常に和やかに、ボーリングの心地好い疲れをいやしていただいたと思います。ただ、上の先生方のご参加が少なかったのは残念ですが、ご参加いただいた皆様に幹事一同お礼申し上げます。



なお、平成6年3月12日(土)、13日(日)に長良川温泉方面へ親睦旅行を計画しております。年度末を迎える時期で何かとお忙しいかも知れませんが、又、一段落する頃でもあると思いますので、是非多数ご参加いただければと念じております。最後にアンケートにて、いろいろ貴重なご意見をいただきありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

(記・幹事 有本正生、写真 伊藤優子)

# 人事異動

## ■ 法人人事

理事・評議員の改選による異動

◇理事就任（平成5年6月20日 任期は3年）

理事長 大村栄之助  
理事 大木 令司  
理事 小原 義行  
理事 久保田晴寿  
理事 栗原 拓史  
理事 西村 壯一  
理事 藤田 武司  
理事 堀田 輝明  
理事 森本 史郎

◇理事退任（平成5年6月19日）

石黒 武雄 永田 亘  
岡本 道雄 沼田 敦  
澤木 茂 山田 安邦  
曾根 節子

◇評議員就任（平成5年5月11日 任期は3年）

池田 潔 成定 昌幸  
石田 寿昌 西村 壯一  
今中 宏 沼田 敦  
大木 令司 藤田 武司  
大村栄之助 藤原 富男  
岡本 彰 堀田 輝明  
小原 義行 松尾 壽之  
香月 英男 水川 孝  
喜多川一哉 村田 君江  
久保田晴寿 森本 史郎  
栗原 拓史 矢内原千鶴子  
澤木 茂 吉矢 佑  
曾根 節子

（平成5年10月25日）

梶川 益美

◇評議員退任（平成5年5月10日）

安部 和寿 田中 千秋  
石黒 武雄 田村 栄子  
石本 巖 永田 亘  
植松 治雄 松村喜久子  
岡本 道雄 森 逸男  
奥野 喜一 山田 茂樹

## ■ 学内人事

併任（平成5年6月16日）

学生部長 森 逸男（教授）  
（平成5年7月1日）

薬用植物園長 草野源次郎（教授）

昇任（平成5年10月1日）

課長補佐 秋月 延夫（経理課）

採用（平成5年6月11日）

守 衛 関野 孝明（庶務課）

教室主任事務取扱（平成5年6月7日）

馬場きみ江助教（第二生薬学教室）

退任（平成5年6月15日）

稲森善彦教授・学生部長（任期満了）

解 嘱（平成5年5月31日）

川西 茂（守 衛）

（平成5年7月31日）

山田 敏子（経理課）

## ■ 海外出張

黒田 和道助教授（第二微生物学教室）

<出張期間：平成5年8月6日～8月17日>

連合王国・GLASGOWで開催のIXth International Congress of Virology に出席

鶴岡 浩志助手（第二微生物学教室）

<出張期間：平成5年8月8日～8月17日>

連合王国・GLASGOWで開催のIXth International Congress of Virology に出席

千熊 正彦教授（第一分析化学教室）

<出張期間：平成5年8月22日～9月2日>

アメリカ合衆国・SANDIEGOで開催のSIXth International Conference on Bioinorganic Chemistry に出席

石田 寿昌教授（第二物理化学教室）

<出張期間：平成5年8月24日～9月4日>

中華人民共和国・桂林で開催のInternational Symposium on the Frontiers of Peptide-Protein Chemistry and Biotechnologyおよび福州で開催の Symposium on Molecular Structure に出席

## 平成5年度 各部・各委員会・委員

◎は各部署の長（平成5年11月1日現在）

学報 No. 28 (1993. 6. 10) 以降に変更のあったものは次のとおりです。

- |   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| <b>学生部</b><br>望月伸三郎(教授)<br>松村 瑛子(助教授)<br>土井 光暢(講師)                              | ◎森 逸男(教授)<br>赤木 昌夫(助教授)<br>春沢 信哉(助教授)   | <b>医療薬学実習委員会</b><br>千熊 正彦(教授)<br>森本 一洋(助教授)<br>土井 光暢(講師)   | ◎掛見 正郎(教授)<br>中元 安雄(助教授)<br>西野 隆雄(講師)   |
| <b>学生寮</b><br>森 逸男(教授)<br>稲森 善彦(教授)<br>藤本 陽子(助教授)                               | ◎坂田 勝治(教授)<br>望月伸三郎(教授)<br>馬場きみ江(助教授)   | <b>防火対策委員会</b><br>森本 史郎(教授)<br>栗原 拓史(教授)<br>河野 光次(事務局長)<br>伊藤 美雄(庶務課長)<br>井頭 八郎(学生課長)                        | ◎久保田晴寿(学長)<br>森 逸男(教授)<br>千熊 正彦(教授)<br>森本 武司 <small>(事務局次長<br/>施設課長)</small><br>高橋 正好(教務課長) |
| <b>薬用植物園</b><br>松永 春洋(教授)<br>馬場きみ江(助教授)<br>三野 芳紀(助教授)<br>喜多 俊二(助手)<br>芝野真喜雄(副手) | ◎草野源次郎(教授)<br>沼田 敦(教授)<br>木村捷二郎(助教授)<br>西野 隆雄(講師)<br>谷口 雅彦(助手)<br>森本 武司 <small>(事務局次長<br/>施設課長)</small> | <b>建設委員会</b><br>森 逸男(教授)<br>池田 潔(教授)<br>石田 寿昌(教授)<br>草野源次郎(教授)<br>河野 光次(事務局長)                                | ◎久保田晴寿(学長)<br>沼田 敦(教授)<br>望月伸三郎(教授)<br>千熊 正彦(教授)<br>掛見 正郎(教授)                               |
| <b>総務委員会</b><br>森本 史郎(教授)<br>沼田 敦(教授)<br>池田 潔(教授)<br>千熊 正彦(教授)                  | ◎久保田晴寿(学長)<br>森 逸男(教授)<br>栗原 拓史(教授)<br>石田 寿昌(教授)<br>河野 光次(事務局長)   | <b>新キャンパス建設計画委員会</b><br>(H. 5. 6. 22発足)<br>大村栄之助(理事)<br>久保田晴寿(理事)<br>石田 寿昌(評議員)<br>千熊 正彦(教授)<br>森本 武司(事務局次長) | ◎堀田 輝明(理事)<br>大木 令司(理事)<br>池田 潔(評議員)<br>香月 英男(評議員)<br>河野 光次(事務局長)                           |
| <b>施設委員会</b><br>森本 史郎(教授)<br>沼田 敦(教授)<br>池田 潔(教授)<br>石田 寿昌(教授)<br>河野 光次(事務局長)   | ◎久保田晴寿(学長)<br>森 逸男(教授)<br>栗原 拓史(教授)<br>土井 勝(教授)<br>坂田 勝治(教授)  | <b>人権委員会</b><br>(H. 5. 7. 15発足)<br>森下 利明(教授)<br>稲森 善彦(教授)<br>阿部 功(助教授)                                       | ◎森 逸男(教授)<br>栗原 拓史(教授)<br>千熊 正彦(教授)<br>井頭 八郎(学生課長)  |
| <b>広報委員会</b><br>赤木 昌夫(助教授)<br>伊藤 美雄(庶務課長)                                       | ◎沼田 敦(教授)<br>西野 隆雄(講師)<br>村上 昭 <small>(図書課長<br/>資料室長)</small>   |  |   |



## 平成5年度 後期行事予定

### 平成5年

- 10月1日(金) 後期授業開始(1～3年次生)
- 前期定期試験(1～3年次生)欠席届提出締切(教務課)
- 10月2日(土) 就職ガイダンス(3年次生)
- 10月5日(火) 後期選択科目(1～3年次生)履修届提出締切(教務課)
- 10月15日(金) 特別再試験(4年次生)受験者発表
- 10月16日(土) 平成6年度特別実習説明会(3年次生)
- 10月16日(土) 前期追試験(1～3年次生)
- 10月23日(土)
- 10月25日(月) 平成6年度特別実習配属願提出(教務課)
- 10月28日(木)
- 11月5日(金) 第28回大薬祭等(臨時休講)
- 11月8日(月)
- 11月14日(日) 平成6年度推薦入学試験
- 11月20日(土) 第3回薬学総合演習総合試験(4年次生)
- 11月22日(月)
- 11月25日(木) 平成6年度推薦入学試験合格者発表
- 12月4日(土) 就職ガイダンス(3年次生)
- 12月15日(水) 平成6年度特別実習配属内定(3年次生)
- 12月18日(土) 実験動物慰霊祭
- 12月21日(火) 後期授業終了(4年次生)
- 12月25日(土) 冬季休業
- 1月7日(金)

### 平成6年

- 1月8日(土) 授業再開(1～3年次生)
- 1月10日(月) 特別再試験(4年次生)
- 1月20日(木)
- 1月28日(金) 後期授業終了(1～3年次生)
- 1月28日(金) 薬学総合演習正規試験(4年次生)
- 1月29日(土)
- 1月31日(月) 後期定期試験(1～3年次生)《前半》
- 2月5日(土)
- 2月2日(水) 特別再試験・薬学総合演習正規試験(4年次生)成績発表
- 2月7日(月) 後期定期試験(1～3年次生)《前半》欠席届提出締切(教務課)
- 2月10日(木) 平成6年度一般入学試験
- 2月16日(水) 平成6年度一般入学試験合格者発表
- 2月17日(木) 後期定期試験(1～3年次生)《後半》
- 2月23日(水)
- 2月24日(木) 後期定期試験(1～3年次生)《後半》欠席届提出締切(教務課)
- 2月25日(金) 薬学総合演習特別再試験(4年次生)
- 2月26日(土)
- 2月26日(土) 就職ガイダンス(3年次生)
- 3月1日(火) 後期追試験(1～3年次生)
- 3月7日(月)
- 3月3日(木) 卒業生発表(教務課)午後1時
- 3月12日(土) 国試模擬試験(4年次生希望者)
- 3月16日(水) 進級者発表, 進級者未修得科目発表(教務課)午後1時
- 3月19日(土) 第41回学部卒業式ならびに第18回大学院修了式

## 四薬大親睦野球大会で2年ぶりのV!!

9月18日(土)、恒例の四薬大親睦野球大会が武庫川女子大学のお世話で行われた。

本年度は本学の参加者が少なく——11名の選手と3名の応援団の計14名——ケガやスタミナ不足などの交代要員の心配をしながらも、小数精鋭!?を旗印に意気盛んに朝10時半、本学を出発した。

よく手入れが行き届いた人和銀行宝塚運動場で、午後1時からの開会式のあと、初戦の相手は武庫川女子大学であった。1回表の先制攻撃で5点を入れ、楽勝ムードかと思っていたが、最終回裏武庫川女子大学の猛反撃に遭い一転苦戦となったが、浦田→岩永の継投策が功を奏し、10-9で辛勝した。

昨年度優勝の神戸女子薬科大学との対戦となった優勝戦は、1回表我がチームの守備の乱れと、不運な当たりが重なり、2点のビハインドを背負ったが、中盤での得意の集中打と相手投手陣の乱調に付け込み楽々逆転し、そのまま一気に押し切り、結局、11-4で大勝し、2年ぶりの優勝を飾ることができた。

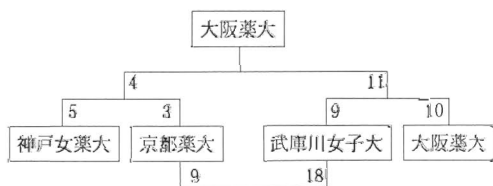
懇親会は、武庫川女子大学が誇る上甲子園キャンパスの甲子園会館(旧甲子園ホテル)で開催された。5時半開始の予定が、野球場からの移動の際の阪神競馬の影響と思われる交通渋滞で大幅に遅れ、6時20分となってしまった。当番校の武庫川女子大学日下学長よりの御挨拶と、ライト作という会場の甲子園会館の御紹介、あとから参加された本学久保学長の乾杯の音頭、そして野球大会の結果発表と優勝

カップの贈呈とつづいたのち、懇親会の本番が賑やかに開宴した。参加者全員は、豪華な会場でのおいしい料理と楽しい歓談で大いに盛り上がった。来年の当番校神戸女子薬科大学(来年度より神戸薬科大学となるが)金子理事長の御挨拶や四大学の発展を願った万歳三唱でしめくられ、7時40分閉会となった。本学参加者一同は、優勝の充実感とすばらしい料理での満腹感で、こうして意気揚々と帰路についていたのである。

本行事の見直し、打ち切りといった意見が二、三年前よりでていたが、本年度は全くそういった議論もなく、来年、再来年、……と積極的に継続させることになった。

このように土曜日の楽しい一日を過ごせましたのは、最後まで御丁寧な御世話していただいた日下学長をはじめ武庫川女子大学の皆様の御陰であり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また本学の優勝は、単に選手あるいは直接本行事を御世話くださいました方々だけでなく、便宜並びに機会を与えてくださいました本学皆様の御陰です。厚く御礼申し上げますとともに、来年度以降も皆様の御協力、御参加をお願いします。来年は是非とも2連覇を目指して頑張りましょう!!

(文 第2分析化学 藤田芳一、写真 庶務課 塚田ひろみ)



’93野球大会結果

(第1戦)

大阪薬大 5 0 4 1 = 10

武庫川女子大 3 0 1 5 = 9

(優勝戦)

神戸薬大 2 1 0 0 1 = 14

大阪薬大 1 0 6 3 1 = 11





◀ 攻・守・走にハリキル  
本学チーム  
練習の成果か？  
この日だけの大穴か？

▶ 豪華な料理を横目にして  
少し緊張の優勝カップ贈  
呈式



◀ 疲れもふっ飛ぶ  
優勝記念撮影



編集・発行

大阪薬科大学広報委員会

〒580 大阪府松原市河合2-10-15

TEL 0723 (32) 1015 (代表)

FAX 0723 (32) 9929